



大妻多摩中学校

一一五（令和7）年度

入学試験問題（第一回）

【国語】

時間 50分

2月1日（土）

【注意事項】

- 1 問題は19ページまであります。
- 2 指示があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 3 答えはすべて、問題の指示に従つて解答用紙に記入してください。
- 4 句読点やカギカッコは一字と数えてください。
- 5 ページが抜けていたり、印刷が見えにくい場合には、手をあげて知らせてください。

一 次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

学生の時に将棋を指していましたが、アマチュア強豪には①物言いをする人をしばしば見かけました。私が所属した大学の将棋部でも、一般的の会話では聞いたことがないような辛辣な言葉が飛び交っていて、私もたびたびそういった辛辣な罵倒の対象となり、悔しい思いをしなかつたと言えば嘘になりますが、私はそんな将棋指したちのことが、結構好きです。

将棋の世界は「優しい嘘」が通用しない、というか、②有意義に機能しない場所です。詰みがある局面では、誰がどう言つてもそれは詰んでいるのであり、それを読めなかつた人は弱いのです。それ以上でもそれ以下でもない。将棋に勝つた人が負けた人に向かって「指そうと思ったら、隣のコマに指が当たつて動いて、それがたまたま好手になりました」とか、「全部、良い手を指されたのに、私の勝ちになつていて、一体どうなつてるんでしようね」とか、③歯の浮くようなことを言つてみても、嘘がバレバレで軽蔑されるだけです。たとえいくら辛くとも、本当のことを言わなければ、負けた原因がわからず、相手も自分も将棋が強くならない。

④将棋指しは知らず知らずのうちに、本当のことと言つてしまふ癖がついています。

しかし、⑤そういつた将棋指しの習い癖は、外の世界に出ると一定の頻度で問題を引き起こします。それは私の人生において時に起こってきたことであり、一部の将棋部の先輩後輩諸氏を見ていても容易に想像できることです。本当のことを言い過ぎると、ある種の社会不適応者という烙印を押されてしまうのです。それは、この世には本当のことを言われると困る人が結構たくさんいるし、一面的な「本当」を主張するだけでは解決しない問題も、現実にはとても多く存在しているからです。

世に溢れる「本當でないこと」

中国の有名な故事成語に（注1）「鹿を指して馬と為す」という言葉があります。これは秦の始皇帝（嬴政）^{（嬴政）}（前259年～前210年）^{（嬴政）}の趙高に関する逸話です。趙高は幼き二世皇帝の胡亥（胡亥）^{（胡亥）}（前238年～前210年）^{（胡亥）}として帝位を握つていましたが、ある時胡亥に「珍しい馬

がおります」と鹿を献上しました。胡亥が「これは鹿ではないか」と問うと、趙高は「いいえ、これは珍しい馬でございます。皆はどう思うか?」と周囲の家臣に尋ねました。これは群臣の自分への忠誠心を試すために行つた趙高の策略で、鹿だと答えた家臣は、軒並み捕らえられて処刑しょけいされたそうです。一説には、これが馬鹿の語源となつたとも言われており、鹿を馬というのはバカなことといふうにも、そんな状況じょうきょうがバカげているといふうにも解釈かいしゃくできる話です。

現代ではさすがに処刑されることはないですが、本当のことを言うことで、自分が属する組織が困つたことになつたり、関連する人との人間関係が悪くなつたり、あるいは自分の評価が下がつたりというような状況は、古今東西ごくごく普通ふつうに発生します。だから、多くの人がそのバカな状況をどうにかこうにかやり過ごしています。言う必要のない本当のことは黙つていたり、わからないとか、知らないことにしたり、⑥開き直つて嘘うそを言うこともあるでしょう。ある国の総理大臣は国会だいぎで118回も嘘の答弁とうべんを行ひ、その理由を「秘書が本当のことを知らせなかつたから」と説明しました。私はこの総理大臣が少なくとも119回の嘘をついたのではないかと思いますが、本当のことが言えない、もしくはとても言いにくい状況といふものは、このように現実に頻繁ひんぱんに起ります。

そして優しい嘘

「嘘うそをついてはいけません」。物心ついた時から、私たちはそう教わり続けます。幼稚園ようちえんでも、小学校しょうがっこうでも、中学校ちゅうがっこうでも、そして大人になつても。⑦、この世は「嘘うそ」、少なくとも「本当でないこと」に満ち溢あふれています。⑧その中には鹿を馬うまというような自分を守る嘘もあるでしょうが、必ずしもそういうものばかりでもありません。灰谷健次郎さんの『少女の器』という小説に、主人公の紺かずりと上野くんという少年のこんな会話が出てきますが、私はこのくだりをとても印象深く覚えています。

「その章子さんという人ははじめ、おまえのおやじが好きやつてんやろ。けつこん結婚してもらわれへんので、よその男のどこへ行つたど。

そやろ」

そういう復習の仕方に絆はとまどつたが、一応、

「そう」

とこたえておく。

「そうしたけど、うじうじするから、よう考えたら、やつぱりおまえのおやじが好きやつたというわけや。なんとかならへんかというてしつぽ巻いて帰つてくる人間にカツコええのがおるか。前と違う章子さんだつたとおまえいうけど、そんなん当たり前や」
惚れた弱みというのをおまえ知らへんからなあ、と少年はいつた。

「頭のええ人間ちゅうのはやつぱり冷たいワ。ドブに落ちた犬見て、あの犬汚い、汚い、いうたら犬かて立つ瀬ないワ。おまえ、

なんで、おれを睨むねん」

絆は唇くちびるをかんでいる。

世の中には、それが本当であつても言わなくていいこと、本当のことを言うことで事態が良くならないこと、そんなこともたくさんあります。「優しい嘘うそ」が人としての生きる知恵ちえであり、必要悪として存在していることは紛れもない事実です。そこで「いや、だつてあの犬、汚いやんか」と言つてしまふのが、将棋指しだつたりするのですが、「優しい嘘うそ」というものが、本当に悪いことなのか、どこまでが許されるのか、私にはよくわかりません。

将棋の世界で「優しい嘘うそ」が有効に機能しないのは、結果が短期間に出て、良し悪しが明白な世界だからだと思います。勝ちに導く手が好手で、負けにしてしまう手は悪手です。しかし、現実の世界はそんな単純にはできていない。ドブに落ちて泥づるにまみれる経験をすることが、その後の人生の成功につながっていくようなことはよくある話です。ドブに落ちたら負け、ではないのです。だから、ドブに落ちたことを責め立てるより、⁽⁹⁾ その傷を癒し、心も体も回復させていく「優しい嘘うそ」の方が長期的な、好手、となることだつてあるのです。

また、嘘はいけないと言つても、鹿を鹿と言えば首をはねられることがわかっている状況で、『鹿!』と言うのは、実際鹿鹿なことではないのかと、思わぬこともあります。映画やドラマであれば、そういう鹿鹿な正直者を助けてくれるヒーローが出てきたり、その人がヒーローに変身できたりするのですが、現実にはそんなことは起こりません。(注4) 物言えれば唇寒し秋の風とは、(注5) 蓋し名言です。

そこはざまで上を向く

では一体、(10)なぜ私たちは嘘をつくことがいけないと教わり続けているのでしょうか？ その本当の問題は、安易に嘘をつく生き方、その生きる姿勢にあるのではないかと、私は思います。生きていると、いろんな苦しいことがやつてきます。志望校に入るため勉強することや試合に勝つためのスポーツの練習もそうでしょう。あた与えられたノルマをこなすことや、何かの仕事を成し遂げることなど、苦しい思いをしなければ達成できないことがあります。もちろん中には、そうやつて頑張ってみても越えられない困難もあるでしょう。結果が失敗に終わること自体は決して悪いことだと思いませんが、私がここで問題にしているのは、そういういた困難や苦しさと真剣に向き合わず、安易に逃げてしまうことです。それは心理的な癖のようなものになり、人として成長するための大切な基盤を蝕んでいきます。

嘘をつくという行為は、そういう困難や苦しさから逃げてしまうことと根が同じだと思います。嘘をつけば、目の前の問題がとりあえずその場では解決します。でもそんなやり方が当たり前になってしまふと、人はいざという時に頑張れなくなってしまう。いつも何かを誤魔化して生きることに慣れてしまふのです。そういう精神の在り方が、その人の人生全体を何か偽物にしてしまう。嘘にはそういう魔力があり、そこに墮^だしてしまうことを戒めるために、聖書も、コーランも、先生も、親も、口をそろえて「嘘をついでいけない」と言うのです。

嘘や不善とまったく無縁のヒーローのように常に格好よく生きることは、生身の人間にはなかなか難しいことです。でも、「はい、趙高さま、それは馬でございます」と魂たましを売ったような生き方をするのも、やっぱり違う。私たちはそのはざまで、ちょっと格好悪く、でも頑張つて生きて行く。そんな生き方しか残されていないのではないか、そんなふうに思つたりもするのです。常に理想を追い求めていけば良いというほど世界は単純ではないけれど、それは理想を忘れてよいということとは、やはり違うのです。

だから、いつも鹿を鹿と言う必要はないのかもしれないけれど、もしたとえば、自分が馬の分類の専門家だつたら……、そう、もしそうなら、やはり“鹿！”と言おうと思うのです。人生には⑪そういうことが必要なことはあるし、鹿ばかになつても悔いがない、と思えるようなものを持てない人生は、なんだかつまらない。私は将棋指しの端くれとして、そう思うのです。

（中屋敷均なかやしきひと『わからない世界と向き合つたために』〔ちくまプリマー新書〕より）

（注1）「鹿を指して馬なと為す」——人を威い圧あつして間違いを押し通すこと、また、人をだましておとしいれることのたとえ。

（注2）官かん官——役人のこと。

（注3）傀儡かいらい——自分の意志や主義を表さず、他人の言いなりに動いて利用されている人のこと。

（注4）物言いえば唇寒し秋の風——何事につけても余計なことを言うと、災いを招くということ。

（注5）蓋けだし——物事を確信をもつて推定する意を表す。まさしく。たしかに。思うに。

問1

〔①〕には、「遠慮せざはつきりと『言う』」という意味の慣用句が入ります。空欄に入る慣用句として最も適切なものを、次の

ア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 口が減らない イ 目も当てられない ウ 舌を巻く
エ 齒に衣着せぬ オ 水を差す

問2 — 線部②「有意義に機能しない場所」とありますか。その理由として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「本当ではないこと」に満ち溢れ^{あふ}ている世界だから。
イ 本当のことを言うことで、困る人がいる世界だから。
ウ 結果が短期間に^み出る、良し悪しが明白な世界だから。
エ 「嘘をついてはいけない」と、言われる世界だから。

問3 — 線部③「歯の浮く」とありますが、この言葉の意味として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 軽薄^{けいはく}で見え透いた言動に接して、不快な気分になるさま。
イ 不快な音を耳にして、歯が浮き上がるよう^すに感じるさま。
ウ 心がうわついて他人に対し思慮^{しりょ}に欠ける行動をするさま。
エ 嬉しい気持ちになり、そわそわして落ち着きがないさま。

問4

④ □ • ⑥ □ • ⑦ □ に入れるのに最も適切な言葉を、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度以上使用しないこと。

- ア しかし イ ただし ウ しかも エ だから オ あるいは

問5 — 線部⑤「そういった将棋指しの習い癖は、”外の世界”に出ると一定の頻度で問題を引き起こします」とありますが、それはなぜですか。その理由を、本文中の言葉を使って五十字以上、六十字以内で答えなさい。

問6

——線部⑧「その中には鹿を馬というような自分を守る嘘もある」とあります、なぜそれが「自分を守る嘘」になるのですか。その理由として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 本当のことを言うことで策略にはまり、バカげた状況を作つてしまい、最悪の場合捕らえられて処刑されてしまうことがありえるから。

イ 本当のことを言うことで、権力を持つ人への忠誠心がないと見なされ、自分にとつて不都合な状況が引き起こされる可能性があるから。

ウ 謎をつくことにより権力を持つ人に気に入られ、高い地位に上り詰めることができたり、重要な仕事を任せたりすることがあるから。

エ 謎をつくことによりバカげた状況が作りあげられてしまい、人間関係が悪くなったり自分の評価が下がつたりすることがよくあるから。

問7

——線部⑨「その傷を癒し、心も体も回復させていく『優しい謎』の方が長期的な、好手、となることだってある」とあります、それはなぜですか。その理由を二十五字以上、三十五字以内で答えなさい。

問8

——線部⑩「なぜ私たちは謎をつくことがいけないと教わり続けているのでしょうか?」とありますが、それはなぜですか。その理由として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 謎をつくことをいつまでも続けてしまうと、人はいざという時に頑張れなくなってしまうものであるから。
イ 謎をつくと目の前の問題がとりあえずその場では解決するが、やはり簡単には困難から逃げられないから。
ウ 謎をつくことを続けると、人というのはいつもなにかを誤魔化して生きることに慣れていくてしまうから。
エ 謎をつくことは困難や苦しさから逃げることで、人として成長するための大切な土台を壊してしまうから。

問9 — 線部⑪「そういうこと」とあります、それはどういうことですか。その説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 言う必要のない本当のことは、知らなかつたことにしておくということ。
イ 馬の専門家として、鹿を見て「それは鹿だ」と言わないようのこと。
ウ 本当のことが言いにくい状況であつても、嘘をつかないようのこと。
エ 本当のことを知つていると知られないように、開き直つて嘘を言うこと。

問10

この文章に関する説明として、適切なものには○、不適切なものには×で答えなさい。

- ア 世の中の「嘘」というものの中には「優しい嘘」というものがあり、それは人が生きるための知恵であつて、必要悪として存在しているという事実がある。
- イ 世の中には本当のことを言わると困る人が一定数存在するため、本当のことを言うと、それを言った人は社会不適応者として集団から排除されてしまう。
- ウ 嘘をつく人は、困難や苦しさと真剣に向き合わず安易に逃げてしまふため、人として成長するための基盤が損なわれ、人生を単純なものだと捉えてしまう。
- エ 正直にものを言えば自分にとって不都合なことが起こると分かつていても、嘘をつかずに正直に自分の意見を述べることは時には必要なことである。

二

次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

中学三年生で文芸部に所属している春希は、文章や詩を書くのが大好きで、インターネットサイト「いちじつ」で詩を発表していた。しかし、心ないコメントに傷つき、投稿から離れていた。ある日、父親の友人で作家の沙羅さんから、意外な依頼が届いた。

「春希さま よかつたら、このゲラを読んでくれませんか？ 作家の仕事を体験できるいいチャンスにもなるかなと思って、依頼します。春希ちゃんにお願いしたいことは、次の通りです」――。

そんなお手紙といつしょに、①ぶあつい紙の束がどさつと（それは本当に、どさつ、という感じだった）届いたのは、今月の初めだつた。

ゲラというのは「ゲラ刷り」の略語で、作品を校正し、誤字や脱字や文法ミスなどがあれば直し、作家がさらに表現を練ったり、文章を磨いたりして、より完成度の高い作品にしていくために印刷されたもの。印刷所から、最初に届くのが初校ゲラで、そのあと、再校ゲラ、三校ゲラ、念校、と、何度か出てくるそうだ。

体裁としては、あとで実際に本になるページの、まだ綴じられていない紙の束。そこに、沙羅さんの書いた原稿が活字になつて、印刷されているわけである。

あたしに依頼されたのは、それを読みながら、

(1) 疑問を感じたところ。

(2) 事実とは違つているかもしれないと思えるところ。

(3) 単純な誤字や脱字や文法ミスなど。

(4) 感想、提案、意見、リクエストなどなど。

これらを赤ペンでどんどん書きこんでいく、という作業。

そう、あたしが作家の文章に、赤ペンで書きこみをしていく！

友だちの作文に書きこみをするのは、クラブ活動でやつてるから、慣れてるけど、プロの作家の書いたものに、中学生のあたしが

書きこみをするなんて！

②おぞ
畏れ多い！

出版社では、この作業を、編集者と（注）校閲者がおこなつているという（しかも、複数の人たち）。もちろん沙羅さんもおこなつて
いる。

それをあたしにも依頼してくれたのだ。

いろんな人の目が入つていた方がいいから、という理由で。

「春希ちゃんは③に行つて、自分の目で風景を見てきた人なんだから、編集者や校閲者の気づけないことにも、気づけるかも
しないし、一読者として、読んで感じたことを教えてもらえたうれしい」とのこと。

あたしに与えられた時間は、二週間。

あたしは④国語辞典（電子じやなくて紙の辞書）をそばに置いて、赤ペンを握りしめて、ゲラと格闘した。

それは文字通り「格闘」と呼べる日々であり、時間だった。

小説の内容は、日本に住んでいる男と、アメリカに住んでいる女がギリシャで会う、というお話。最初から最後まで、たんたんと、
ふたりのギリシャ旅行が語られていく。男にも女にも、それぞれの家庭があり、法律上のパートナーがいる。だから、ふたりはどこ
で何をしていても、心のなかでは「ここにはいない人たち」のことを考えている。

⑤かな
悲しいような、哀しいような、カナシイような、物語なのだ。

このような物語とあたしは、なぜ、格闘しなくてはならなかつたのか。

それは、言葉には、本当にいろんな意味があつて、いろんな使われ方があつて、意味と使われ方は、その前後に語られていること
や、そこでは語られてないことも関係があつて、ようするに、小説というのは、言葉と言葉が緊密につながり合つていて、たつた
きんみつ

ひとつの言葉を変えただけで、その段落がすべてがらりと変わってしまうこともあつて、段落だけじゃなくて、章全体にも影響を及ぼしてしまうことがあつて、いや、これは言葉には限らなくて、□⑥、つまりたつたひとつの「、」の位置を変えただけで、何もかもが変わつてしまふようなこともあつて——この文章、いつまで続くのかわからぬけど、とにかく、とにかく、言葉つてすごい、言葉つておそろしい、言葉つて、と、あたしは格闘をしていたのだつた。

言葉つて、疑いはじめると、きりがない。

たとえば「愛」という言葉ひとつを取つても、それはどういう愛なのかつていう疑問が発生する。

愛つて、男女や男男や女女や、恋愛や色恋の愛だけじゃなくて、母性愛もあれば、父性愛もあるし、友情だつて愛だし、同情だつて愛だし、献身も思いやりも情も愛だし。

それに、ときには憎しみが愛だつたりすることも、あるのである！

生まれてからきようまで、あたしはこれほどまでに辞書を引いたことがあつただろうか。生まれてからきようまで、あたしはこれほどまでに言葉を疑つてみたことがあつただろうか。

□⑦。

それにしても作家とは、毎日、毎日、こんなことをやつているのか。

作家とは、言葉を使つてゐる、のではなくて、言葉に使われてゐるのではないか。そう、つまり、作家とは「言葉に尽くし、言葉に奉仕する、召使い」のような存在なのではないか。小説家は、小説を書いてゐるのではなくて、小説によつて、□⑧のではないか。「書く」とはすなわち「尽くす」こと。

なあんてことを思いながら、あたしは今夜も、(愛すべき) ゲラとの (幸せな) 格闘を続けてゐるのであつた。

観念的な言葉を使わないこと。

論理的に書くこと。

これって、頼まれたゲラ校正の作業（というか、仕事と言るべきか）を終えて、沙羅さんに送ったあと、お礼状とともに、あたしの赤字に対して、沙羅さんから返ってきた言葉。

観念的って、どういうこと？

論理的って、どういうこと？

さあ、辞書を引け、辞書を！

観念的な言葉を使わないということは、説明するのではなくて描写せよ、ということだ。具体的に、生き生きと。

論理的に書くということは、筋道を立てて、思考の流れが読んだ人にもしつかりとつかめるように、^⑨垂れながすのではなくて、^{すいこう}推敲を重ねて書け、ということだ。

これがあたしの理解である。

ここでとつぜん、沙羅さんの小説のなかに出てきたフレーズで、あたしがすごく好きだと思つたもののひとつを思いだす。

それは――

「海辺のレストランの屋外席の青い空のもと、孤独と空腹は、同義語なのである」だ。

(10) ナフプリオンのレストランで向かいあつてているとき、女は「孤独」で、男は「空腹」なんだけど、それらは「同義語である」と、作家は書く。

これらはきっと、観念的な言葉ではなく、よつてこの文には論理性があるのである。なぜなら、女は男と向かいあつていても寂しくて、孤独で、つまり、心は空腹だし、一方の男の心には愛は満ちているものの、体は食べ物を求めているのだから、やつぱり空腹。ということは、つまり、満腹と空腹も同義語つてことか。ん？ OK？

『青春この指とまれ』の編集長・佐々木まいこさんから電話あり。

冬号に一挙掲載された「ミー詩集——はるかな春の希望」（あたしの詩・十編）の評判がすごぶるよくて、編集部には「もつとこの

人の詩を読みたい」というリクエストの電話やメールも複数、届いているという。

「私も同感です。私もあなたの詩をもつとたくさん、浴びるように読んでみたいと思っています。編集部内でもみんなそう言っています」

「ほんとですか？」

「ほんとですか？」

「ほんとですか？」

「あの、わたしつて、まだ中学生だし、プロの作家でもないし」

「詩には年齢は関係ないし、詩にはプロもアマもありません」

「ほんとですか？」

「ほんとです。詩人の私が言つてるんですから、間違^{まちが}いありません」

そこで、これまでに書いた詩のストックがまだあるのであれば、それらをまとめて送つて欲しい、そして、新作もどんどん書いて送つて欲しい、そして、数がそろえれば、それらをまとめて詩集を出したいと思っている、とのこと。

「し、ししゅうですか？」

あたしの頭には、チクチク針を刺す刺繡^{さしう}が浮かんでいる。

「詩集です」

「それって、あの、紙に印刷されて、本の形になつてているのですか？」

「その通りです」

「あの、ネット詩集とかじゃなくて、リアルな紙の？」

「うちで出しているものは、紙の本だけです」

「本になつたら、どうなるんですか？」

「書店に並びます。買つていかれる方もいるでしょうね」

「ほんとですか？」

「(11)西城さんって、疑い深い性格なんですね」

「すみません」

「謝らなくていいです」

「(12)めんなさい」

電話線の向こうのはしつこで、佐々木編集長の笑い声がした。

電話線のこっち側で、あたしの顔は笑つていない。

(12)大変なことが起こっている、という緊張感(きんちょうかん)が全身を走りぬけていく。まるで稻妻(いなずま)みたいに。

佐々木まいこさんは言った。

とりあえず、近日中に、打ち合わせをしたい。

東京から岡山まで、会いに行くので、場所を指定して欲しい。

電話を終えたあと、あわてて、両親に相談したら、駅前のホテルのティールームがいいんじゃないかと言われた。アドバイスに従うことにして。最初のあいさつのときだけ、チチがいつしょに来てくれる成了った(チチよ、ありがとう)。

詩集にはイラストも付くことになつていて、イラストレーターの人と、発行人の佐々木まいこさんのほかに、詩集の編集を実際に担当してくれる編集者もいつしょに来てくれるという。その担当者といつしょに、沙羅さんのゲラで経験させてもらつたのと同じことを、詩集の出版の前にもするみたいだ。

ああ、ゲラで勉強しておいてよかつた!

しかし、あまりにもどんどん拍子に物事が進みはじめて、あたしは(13)あつけにとられている。あたしの詩が勝手に成長して、なんだか、あたし自身は取りのこされてしまっているようなのだ。

もつと、うれしくなつてもいいはずなのに、今のあたしは、うれしさを通りこして、恐怖(きょうふ)を感じている。

「幸せすぎて、不幸」とでも言えるような状態だ。

これって、的表現じゃないし、きわめて的なんではなかろうか。

(14)

(15)

(小手鞠るい『文豪中学生日記』[あすなろ書房]より)

(注) 校閲者——原稿を読み、内容が事実と相違ないかなどを確認する仕事をする人。

問1 線部①「ぶあつい紙の束」とあります。それは何ですか。最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 誤字や脱字や文法ミスなどを直した原稿。
- イ 沙羅が完成させたばかりの手書きの小説。
- ウ 春希が以前書いて沙羅に送っていたゲラ。
- エ 沙羅の原稿が活字になつて印刷されたもの。

問2

——線部②「畏れ多い！」から読み取れる「あたし」の心情を説明したものとして、最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 中学生がプロの作家の書いたものに書きこみをするなんて分不相応だと思っている。

イ 素人の自分がプロの文章の誤字や文法ミスを見つけることを誇らしく思っている。

ウ 作家になるという夢をかなえる大きなチャンスを逃したくないと思っている。

エ プロの完成度の高い作品をいつも読んでいる編集者は尊敬できると思っている。

問3

□(3) □に入る国名を本文中から抜き出しなさい。

問4

——線部④「国語辞典」とありますが、次の語句を国語辞典に載っている順に並べ替え、記号で答えなさい。

ア 詩集 イ 出版 ウ 思考 エ 小説

問5

——線部⑤「悲しいような、哀しいような、カナシイような」という表現には「あたし」のどんな思いがこめられていますか。

最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア たどたどしい言葉しか出てこないくらいすばらしい物語だった、という思い。

イ 話し言葉を巧みに使うことにより物語の魅力を伝えたい、という思い。

ウ 物語の雰囲気を表現するのにどの表記があさわしいか選べない、という思い。

エ 三回繰り返すことによってテンポよく感情を伝えたい、という思い。

問6

⑥に入る言葉として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 濁点 イ 半濁点 ウ 読点 エ 句点

問7

⑦に入る言葉として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ない イ ある ウ はい エ 疑つた

問8

⑧に入る言葉として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 尽くされている イ 書かされている ウ 奉仕されている エ 思われている

問9

――線部⑨「垂れながすのではなくて、推敲を重ねて書け」とありますが、どういうことが求められていますか。「読み手」という語を必ず使い、四十字以内で具体的に説明しなさい。

問10

――線部⑩「これら」とは何を指しますか。本文中から五字以内で抜き出しなさい。

問11

――線部⑪「西城さんって、疑い深い性格なんですね」とありますが、佐々木まいこさんは、「あたし」のことをどのように感じていると読み取れますか。最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 詩的印象と違い、大人びたところがあると感じている。
イ なかなか信じようとしないことに対し、いらだちを感じている。
ウ びっくりしていることに対し、ほほえしさを感じている。
エ 話が先に進まないことに対し、もどかしさを感じている。

問12 — 線部⑫「大変なこと」とはどのようなことですか。最も適切なものを二十五字以上、三十五字以内で答えなさい。

問13 — 線部⑬「あっけにとられている」とは、どのような状態ですか。最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア どうしてよいかわからないでぼんやりしている状態。

イ 予想していなかつたことが起こり意外に思っている状態。

ウ 手段が尽きてしまいどうしていいか迷っている状態。

エ 不安でありながらも期待に満ちあふれている状態。

問14 □・□に入る言葉として最も適切なものを、それぞれ二字で本文中より抜き出しなさい。

問15 この小説の文章表現の特徴として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 作家の仕事の一部分が、中学生の「あたし」の目線で語られている。

イ 会話文が効果的に使われ、登場人物の様子がいきいきと描かれている。

ウ 「！」や「？」などが多く使われ、テンポのよい文章になっている。

エ 読み手に対して疑問が投げかけられるなど、対話的な文章になっている。

三

次の各問い合わせ下さい。

問1 次の①～⑤の文の一線部のカタカナを適切な漢字に直しなさい。

① フウフ別姓べっせいについて意見を交わす。

② 小説をジュクドクする。

③ ジュウコウ感のあるハードカバーの本。

④ ヒヒヨウ家の文章を読む。

⑤ 国語のコウギを受ける。

問2 次の文章の①～⑤に当てはまる四字熟語として最も適切なものを、次のア～カの中からそれぞれ一つずつ選び、

記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度以上使用しないこと。

ア 切磋琢磨せっさたくま イ 十人十色 ウ 一期一会

エ 一朝一夕 オ 日進月歩 カ 一日千秋

ごきげんよう。大妻たま子です。ここではみなさんに向けて、学校の様子を紹介しようと思います。大妻多摩では、「寛容と共生」しょううかいの理念に基づき、①の多様な個性を持つ生徒が、お互いの個性を大切に過ごしています。図書室や自習室などの充実した設備じゅうじつのなかで、すばらしい仲間たちと②しながら成長していくことができますよ。部活動も盛んで、初心者として始める人もみんな③の勢いで成長しています。体育祭・文化祭・合唱祭の三大行事は特に盛り上がるため、みな、④の思いで待ち望んでいます。さて、人ととの出会いは⑤です。大妻多摩でみなさんと出会えることを願っています！

以下余白

